

＜日本史探究④＞ 繩文時代② 教科書: P.9~P.10

4 繩文文化の生活

① 繩文文化の生活は(24.)・(25.)・(26.)など、自然産物の獲得を主としており、(27.)時代に始まった(28.)文化の生産経済ではなかった。(← 稲作が始まる弥生時代から)

(1) 繩文文化の生活スタイルは? ()

② (24.)には(29.)を矢の先につけた(12.)が使われ、狩りのパートナーとして(30.)が使われた。△△←(31.)←(32.)石器 動物の皮をはぐために、(33.)といつ(34.)石器も用いられた。()

(1) 狩猟用具として矢の先端につけられた石器のことを? ()

③ (25.)は、クリやドングリなどの木の実で、マメ類などの栽培も行われた。土掘り用に(35.)[岩鉋]、木の実をすりつぶすための(36.)・(37.)などの石器が使用された。

(38.) → 土掘り用 (39.) → 木材の伐採 (40.) → 木の実のすりつぶし

(1) 繩文時代、木の実をすりつぶすのに使われた石器は? ()

④ (26.)は、温暖化による海進の結果、発達した。26の道具に、動物の骨やキバで作った釣針・鉛・ヤスなどの(41.)や網のおもりに使った(42.)・(43.)がある。各地で発見される(44.)とよばれる船から、26がさかんに行われていたことがわかる。△△←41

(1) 漁労の道具に使われた釣針・鉛などを何といつ? ()

⑤ 26が発達したのは、人々が食べた貝殻や魚の骨など、捨てたものが多量につもった(45.)からわかる。1877年、アメリカの生物学者(46.)が東京にある(47.)を発掘調査したことで、日本の考古学の研究が始まる。

(1) 繩文時代の人々が食べた貝殻や魚の骨など、捨てたものが堆積してきた遺跡を何といつ? ()

(2) 近代科学としての考古学の研究の発端となった、モースが1877年に発掘調査した遺跡は? ()